

高塚直裕と川手鷹彦によるサロン文化

このたびは笛の名手一噌幸弘 師をお呼びしました

笛が
凄
い
！
ニ
ー
チ
エ
の
音
葉
を
奏
す

七色に笛の音操る一噌と

言語の深淵究める川手

二人の天才が

詩と藝術の館ポエティカで出会い

奏で 詠い 即興する



2013.7.16. (火)

18:30 開場 19:00 開演

詩と藝術の館ポエティカ

夕張郡長沼町幌内（ポロナイクリニック隣）

主催 ポエティカ（館主高塚直裕） 協力 一般財団法人《花の家》

参加費 2,000円 問合先 電話 0123-84-2864（ポロナイクリニック）

* 藝術プログラムの内容から、小学三年生以下のお子さまは入場できません。

一噌幸弘（いっそうゆきひろ）

安土桃山時代より続く能楽一噌流笛方、故一噌幸政の長男として9歳の初舞台以後「道成寺」「翁」等数々の大曲を披く。能楽師として第一線で活躍するだけでなく、篠笛・自ら考案した田楽笛・リコーダー・つの笛など和洋の笛の演奏、作曲活動、交響楽団・歌手・舞踏家との共演、楽曲のアレンジ、自作曲の提供など多岐多岐。卓越した技量により音楽の新たな可能性を切り拓いてきたことに、日本文化藝術財団より第二回「創造する伝統賞」が授賞される。

重要無形文化財総合指定保持者、国立能楽堂講師

ホームページ <http://www.tohyohyo.com/>

川手鷹彦（かわてたかひこ）

演出家・劇作家・治療教育者

スイス・ゲーテアヌム言語造形・舞台芸術学院卒業。東京大学・立命館大学など諸大学で講義。バリ島ではランダ舞手として小村・寒村の最奥儀礼を担った。法務省保護局依頼による演劇プロジェクト「オイディプス王」等、各地での少年少女のための演劇塾が大きな社会的反響を呼んでいる。

著書『「魔女ランダ」への道』（一般財団法人 花の家）『とらおおかみ—子どもらの心が生んだ物語』（地湧社）『心の傷を担う子どもたち』（哲学者中村雄二郎と共著、誠信書房）他